学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首６）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「とまをあらみ」の部分は、五音として数えましょう。）

あらしふくみむろのやまのもみじばはたつたのかわのにしきなりけり

能因法師（のういんほうし）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

あらしがふきおろす三室山のもみじの葉は、まるで竜田川の錦織物のようにうつくしいなあ。

解答

学習日：　　月　　日（　　）

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首６）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「とまをあらみ」の部分は、五音として数えましょう。）

あらしふく－みむろのやまの－もみじばは－たつたのかわの－にしきなりけり

能因法師（のういんほうし）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

あらしふく	みむろのやまの	もみじばは	たつたのかわの	にしきなりけり

（意味）
あらしがふきおろす三室山のもみじの葉は、まるで竜田川の錦織物のようにうつくしいなあ。

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首７）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

おくやまにもみじふみわけなくしかのこえきくときぞあきはかなしき

猿丸太夫（さるまるだゆう）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

人里から遠くはなれた山奥で、もみじをふみ分けて鳴く鹿の声を聞くときこそ、秋は悲しいと感じられる。

解答

学習日：　　月　　日（　　）

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首７）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

おくやまに｜もみじふみわけ｜なくしかの｜こえきくときぞ｜あきはかなしき

猿丸太夫（さるまるだゆう）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

おくやまに	もみじふみわけ	なくしかの	こえきくときぞ	あきはかなしき

（意味）
人里から遠くはなれた山奥で、もみじをふみ分けて鳴く鹿の声を聞くときこそ、秋は悲しいと感じられる。

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首８）
中・高	

年　　組　氏名

二、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「うちいでてみれば」は七音として数えましょう。）

きみがためはるののにいでてわかなつむわがころもでにゆきはふりつつ

光孝天皇（こうこうてんのう）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

あなたのためにあげようと、春の野に出かけて若菜をつんでいるわたしのそでに、雪が次々とふりかかっている。

解答

学習日：　　月　　日（　　）

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首８）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「うちいでてみれば」は七音として数えましょう。）

きみがため－はるののにいでて－わかなつむ－わがころもでに－ゆきはふりつつ

光孝天皇（こうこうてんのう）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

きみがため	はるののにいでて	わかなつむ	わがころもでに	ゆきはふりつつ

（意味）
あなたのためにあげようと、春の野に出かけて若菜をつんでいるわたしのそでに、雪が次々とふりかかっている。

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首９）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

ひとはいさこころもしらずふるさとははなぞむかしのかにほいける

紀貫之（きのつらゆき）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）
あなたの心は昔のままかどうか分からないが、昔なじみのこの里の梅の花は、昔と同じかおりで咲きにおっている。

【小学校国語・ワークブック】

解答

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E19

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首９）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

ひとはいさ｜こころもしらず｜ふるさとは｜はなぞむかしの｜かにににほいける

紀貫之（きのつらゆき）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

ひとはいさ	こころもしらず	ふるさとは	はなぞむかしの	かにににおいける

（意味）

あなたの心は昔のままかどうか分からないが、昔なじみのこの里の梅の花は、昔と同じかおりで咲きにおっている。

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１０）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「ころもほすちょう」は七音として数えましょう。）

あきかぜにたなびくくものたえまよりもれいづるつきのかげのさやけさ

左京大夫顕輔（さきょうのだいふあきすけ）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）
秋風によってたなびいている雲の切れ間から、もれて出てくる月の光が、なんとすみきって明るいことだろう。

解答

学習日：　　月　　日（　　）

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１０）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。（「ころもほすちょう」は七音として数えましょう。）

あきかぜに一たなびくくもの一たえまより一もれいづるつきの一かげのさやけさ

左京大夫顕輔（さきょうのだいふあきすけ）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

秋風によってたなびいている雲の切れ間から、もれて出てくる月の光が、なんとすみきって明るいことだろう。

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１１）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

ほととぎすなきつるかたをながむればただありあけのつきぞのこれる

後徳大寺左大臣（ごとくだいじのさだいじん）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）
ほととぎすが鳴いた方角をながめると、そのすがたは見えず、ただ夜明けの空に、月だけが残っている。

【小学校国語・ワークブック】

解答

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E19

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１１）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

ほととぎす－なきつるかたを－ながむれば－ただありあけの－つきぞのこれる

後徳大寺左大臣（ごとくだいじのさだいじん）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

ほととぎす	なきつるかたを	ながむれば	ただありあけの	つきぞのこれる

（意味）
ほととぎすが鳴いた方角をながめると、そのすがたは見えず、ただ夜明けの空に、月だけが残っている。

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１２）
中・高	

年　　組　氏名

三、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

はなのいろはうつりにけりないたづらにわがみよにふるながめせしまに

小野小町（おののこまち）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

ふり続く春の雨に、桜の花びらも色あせていく。そしてわたしも、日々を過ごしている間に、若さも美しさもすっかりおとろえてしまった。

解答

学習日：　　月　　日（　　）

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１２）
中・高	

年　　組　氏名

二、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

はなのいろは－うつりにけりな－いたづらに－わがみよにふる－ながめせしまに

小野小町（おのの こまち）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

はなのいろは	うつりにけりな	いたづらに	わがみよにふる	ながめせしまに

（意味）

ふり続く春の雨に、桜の花びらも色あせていく。そしてわたしも、日々を過ごしている間に、若さも美しさもすっかりおとろえてしまった。

【小学校国語・ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E19

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１３）
中・高	

年　　組　氏名

一　百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

いにしへのならのみやこのやえざくらけふここのえにほひぬるかな

伊勢大輔

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

むかし、奈良の都で咲きほこっていた八重桜の花が、今日は九重の宮中に、美しく咲きにおっている。

解答

学習日：　　月　　日（　　）

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１３）
中・高	

年　　組　氏名

二、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

いにしへの｜ならのみやこの｜やえざくら｜けふここのえに｜にほひぬるかな

伊勢大輔（いせのたいふ）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

いにしへの	ならのみやこの	やえざくら	けふここのえに	にほひぬるかな

（意味）
むかし、奈良の都で咲きほこっていた八重桜の花が、今日は九重の宮中に、美しく咲きにおっている。

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１４）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

あしびきのやまどりのをのしだりをのながながしよをひとりかもねむ

柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

あの山鳥のたれさがった長い尾よりも、もっと長い秋の夜を、わたしは恋しい人とはなれて今夜も一人でさびしく寝るのだろうか。

【小学校国語・ワークブック】

解答

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E19

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１４）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

あしびきの｜やまどりのをの｜しだりをの｜ながながしよを｜ひとりかもねむ

柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

あしびきの	やまどりのをの	しだりをの	ながながしよを	ひとりかもねむ

（意味）
あの山鳥のたれさがった長い尾よりも、もっと長い秋の夜を、わたしは恋しい人とはなれて今夜も一人でさびしく寝るのだろうか。

【小学校国語・ワークブック】

学習日：　　月　　日（　　）

小学校国語　No.E19

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１５）
中・高	

年　　組　氏名

一、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

なつのよはまだよひながらあけぬるをくものいづこにつきやどるらむ

清原深養父（きよはらのふかやぶ）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

（意味）

夏の夜は、まだ宵のくちだと思っているうちに、もう明けてしまった。いったい雲のどのあたりに月が宿っているのだろう。

解答

学習日：　　月　　日（　　）

学　年	言葉のリズムを味わおう（百人一首１５）
中・高	

年　　組　氏名

二、百人一首の短歌（和歌）は、五・七・五・七・七の三十一音からなっています。次の短歌を、五・七・五・七・七となるように、区切って線を引きましょう。

なつのよは－まだよひながら－あけぬるを－くものいづこに－つきやどるらむ

清原深養父（きよはらのふかやぶ）

二、一の短歌を、五・七・五・七・七となるようにわけて書きましょう。また、何度も声に出して読み、言葉のリズムを味わいましょう。

なつのよは	まだよひながら	あけぬるを	くものいづこに	つきやどるらむ

（意味）
夏の夜は、まだ宵のくちだと思っているうちに、もう明けてしまった。いったい雲のどのあたりに月が宿っているのだろう。